

よって、鳥取県がどの方法が現状にあっているのか、今後、更に検討する必要がある。

#### 4. その他：中村委員長

米子市の肺がん検診受診率は低率であり、2年前から健対協、西部医師会を通じて、医療機関検診を導入して頂くよう要望してきたが、財政上の理由で導入されずに現在に至っている。

平成21年度実施に向けて、平成20年8月4日付けで、清水部会長、中村委員長の連名で米子市長あてに要望書を提出し、8月8日は野坂米子市長、米子市健康対策課関係者と中村委員長が面談を行った。

その結果、米子市は肺がん検診受診率を向上させるために、医療機関検診を導入することに前向きに検討することとなった。人間ドックの胸部X線写真の読影が使用可能であれば、平成21年度から医療機関検診を実施出来るように準備を進めることとなった。また、喀痰検査の判定は基本的に

は鳥取県保健事業団に委託することとなった。

平成21年度実施に向けて、人間ドック受託医療機関のうち、「鳥取県肺がん医療機関検診実施「一次検診」医療機関登録」をしていないところがあるので、登録率を高めるよう医療機関に周知を行っていく必要がある。

市から健対協に支払う読影料1件につき420円、鳥取県保健事業団に支払う喀痰検査委託料1件につき2,730円の予算化も可能であるという回答を頂いた。

委員会終了後、再度、米子市健康対策課と協議し、その結果を踏まえ、西部医師会と話を詰めていく予定である。

#### 協議事項

##### 1. 肺がん検診従事者講習会・症例検討会について

今年度は、中部地区で平成21年2月28日（土）に開催予定。

## マンモグラフィー併用検診の精度向上と完全導入にむけて

鳥取県成人病検診管理指導協議会乳がん部会  
鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会

■ 日 時 平成20年8月23日（土） 午後2時30分～午後3時50分

■ 場 所 鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町

■ 出席者 16人

岡本健対協会長、石黒部会長、工藤委員長

井奥・大久保・雁長・小林・長井・林・藤井・山下・吉中各委員

県健康政策課：川本保健師

健対協事務局：谷口局長、岩垣係長、田中主事

#### 挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

マンモグラフィー併用検診を導入してから、が

ん発見率の向上及び早期の乳がんが発見されるようになり大変喜んでいるところである。その一方で、隔年検診であるために受診率が正確に把握できているのかどうか、危惧しているところである。

また、西部の一部では視触診のみの検診を実施しており、平成20年度より国はこれを検診とは認めない方向にあるため、このあたりを含め協議して頂きたい。

〈石黒部会長〉

マンモグラフィ検診が開始され3年が経過し、結果も良い方向へ向かっている。最近の読影は繰り返し検診の方が増えているような印象がある。一方で様々な問題点も抱えているので、そのあたりを協議していきたい。

〈工藤委員長〉

マンモグラフィ併用検診のデータも揃ってきて、同時に各地区の問題点等も出てきているように思う。本日は忌憚のないご意見を伺いながら、より良い方向に向けていきたい。

## 報告事項

### 1. 平成19年度乳がん検診の実績（中間）及び平成20年度実施計画について：

川本県健康政策課がん・生活習慣病担当保健師

#### （1）鳥取県調べ

平成17年度より対象者40歳以上で、同一人が隔年でマンモグラフィ併用検診を行うこととなった。平成19年度の対象者数は108,292人で、このうち受診者数は15,354人（集団検診：6,502人、医療機関：8,852人）で、視触診及びマンモグラフィ併用は19市町村で実施され14,164人、視触診のみは7市町で実施され1,190人、受診率は14.2%であった。前年度より受診者数は1,398人、受診率は1.5ポイント増加した。

要精検者数は1,481人、要精検率9.65%で前年度より1.2ポイント減少した。触診及びマンモグラフィ併用は9.88%、視触診のみは6.89%であった。

精検受診者数は1,325人、精検受診率は89.5%で前年度より1.2ポイント増加した。

精検の結果、乳がん61人、乳がん疑いは8人発見され、乳がん発見率（がん／受診者数）は0.40%で、前年度より0.12ポイント減少した。陽性反応適中度（がん／精検受診者数）は4.6%であった。

視触診及びマンモグラフィ併用からはがんが56名発見され、がん発見率は0.40%であった。視触診のみからはがんが5名発見され、がん発見率は0.42%であった。

乳がん検診は隔年検診のため、国において受診率の算出方法が次のように示されている。

$$\text{乳がん検診受診率（\%）} = \frac{\text{18年、19年度受診者数} - \text{2年連続受診者数}}{\text{19年度対象者数}}$$

これによると、平成19年度受診率は24.2%であった。なお視触診のみの受診者数は含まれていない。

協議の中で、以下の質問があった。

- ・境港市の視・マンモグラフィ併用検診の受診率が0.8%と非常に低い。境港市は医療機関での視触診を主流に検診を進めているが、国は視触診のみの検診は認めない方向にある。効果的な検診が受けられるよう、実施主体の境港市へ、石黒部会長と西部地区担当の小林委員からマンモグラフィ併用検診の実施体制について強く要望していただくこととした。
- ・東部と西部では対象者数、受診率、要精検査者数はほぼ同じであるのに、がん発見率、陽性反応適中度に倍近い差が出てきている。これについて、東部地区では比較読影件数が多いことから、今後努力していきたいとのことだった。また、その他の地区においても、今一度、精度管理をきちんと行っていただくよう確認していただきたいとのことだった。

（2）平成20年度は、対象者数114,047人で、このうち受診者数は16,933人、受診率14.8%を予定している。このうち、倉吉市、湯梨浜町、大山町について昨年度の対象者数より大きく減少している

が、これは国が示している対象者の算定方法を取り入れた結果とのことだった。

### (3) 鳥取県保健事業団調べ：大久保委員

住民検診は5,894人が受診し、そのうち要精検者は486人、要精検率8.25%、乳がんは11人発見された。

職域検診は1,099人が受診し、要精検査は115人、要精検率10.46%、乳がんは3人発見された。近年、報道等でマンモグラフィー検診が話題になることから、職域での受診者数が増加傾向にあるようである。

また、マンモグラフィーのみで要精検の場合、精検結果に「乳がん疑い」で3ヶ月後再検とされ、その結果、最終診断がどうだったかの情報が保健事業団では把握できない。これについては、保健事業団より精密検査医療機関へ問い合わせしてみようか、という意見があった。

## 2. 平成19年度乳がん検診マンモグラフィー読影委員会開催状況について

平成19年度の各地区読影会実施報告は、以下のとおりである。

東部（工藤委員長）－東部医師会館を会場にして、週2回読影会を開催した。計88回開催し、1回の平均読影件数は39件であった。5市町を対象に12医療機関で撮影された写真3,429件の読影を行い、CAT1が2,658件（77.49%）、CAT2が531件（15.48%）、CAT3が220件（6.41%）、CAT4が16件（0.47%）、CAT5が4件（0.12%）であった。比較読影件数は1,347件（39.3%）であった。読影委員会、症例検討会をそれぞれ3月に開催した。昨年に比べてCAT3以上の割合が減り、精度が上がってきていると思われる。

中部（林委員）－県立厚生病院を会場にして、週1回読影を行った。計42回開催し、1回の平均読影件数は24件であった。4市町を対象に4医療

機関で撮影された写真942件の読影を行い、CAT1が715件（75.90%）、CAT2が152件（16.14%）、CAT3が64件（6.79%）、CAT4が10件（1.06%）、CAT5が1件（0.11%）であった。比較読影件数は57件（6.1%）であった。読影委員会を19年12月、症例検討会を3月に開催した。

西部（石黒部会長）－西部医師会館を会場にして、週2回読影を行い、計41回開催、1回の平均読影件数は45件であった。5市町を対象に2医療機関で撮影された写真1,861件の読影を行い、CAT1が1,357件（72.92%）、CAT2が312件（16.77%）、CAT3が176件（9.46%）、CAT4が12件（0.64%）、CAT5が4件（0.21%）であった。比較読影件数は137件（7.4%）であった。その他は各医療機関で読影をされている。視触診しながらエコーで確認して読影をされている先生もいるようで、このあたりが陽性反応適中度が高くなっている要因ではないかとのことだった。症例検討会を3月に開催した。

## 3. 検診対象者の取扱いについて

「がん検診事業の評価に関する委員会」は、「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方」について平成20年3月に報告書を作成した。国が示した算出方法は以下のとおりである。

がん検診対象者数 = ① - ② + ③ - ④  
(男女別 5歳刻みの各年齢群での対象者数の合計人数)  
※子宮がん、乳がんについてはそれぞれ20歳以上、40歳以上の女性とする。

- ①40歳以上の市町村人口：総務省統計局【国勢調査報告】第1次資料（5歳刻み）  
5年毎更新
- ②40歳以上の就業者数：総務省統計局【国勢調査報告】第2次基本資料（5歳刻み）  
5年毎更新
- ③農林水産業従事者：総務省統計局【国勢調査

報告】第2次基本資料 5年毎更新

(産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数及び平均年齢資料から第1次従事者数を算出)

④要介護4・5の認定者 介護給付実態調査(5歳刻み)

平成19年度鳥取県市町村別乳がん検診実績を元に、国が示す上記の算定方式の対象者数と比較を行ったところ、倉吉市を除く市部については国が示す算定方式では1,000~2,500人程度減少する見込みである。また、アンケート調査等により対象者を把握している町村の対象者数については、国が示す算定方式の対象者数の方が多くなり、受診率が下がってしまうということとなる。

現時点では、県としては、国が示している算出方式を導入するよう市町村には言えないが、国の算定方式を取り入れたいという市町村は進めて頂き、独自の算定方式で正確に対象者を把握している市町村については、現状のままで算定して頂く。鳥取県としては、もうしばらく状況を見ながら進めていきたいと考えている。

#### 4. 検診発見乳がん患者確定調査個人票様式変更について

乳がん発見患者個人票の一部改正を行い、具体的には、2)臨床病期にTisを追加、3)組織型の最後にリンパ節転移個数を追加、4)治療のA)術式にセンチネルリンパ節生検、B)手術以外の治療に治療方法等の追加を行った。

### 協議事項

#### 1. 「乳がん医療機関検診一次検診医」登録更新について

平成20年度は「乳がん医療機関検診一次検診医」

の更新時期となっており、現行の登録基準について検討を行ったところ、特に追加等は無かった。

また、マンモグラフィー読影委員について、乳がん検診学会精度管理中央委員会では5年に一度講習を受けて更新するのが望ましいと言われている。最近になり、その更新について質問が多く寄せられている。できれば受けていただきたいと考えるが、強制的ではないため、今後受けていない人の読影委員としての扱いをどうするのか、との意見があった。全国規模の講習会は受講料も5万円近くかかり、また高齢の先生は出席しにくい。読影委員から外してしまえば、運営に支障が出る可能性もあり、全国規模の講習でなくても、本県の実情に合わせて、運営に支障が出ないよう県内で講習会等を開催してはどうか、今後検討していくこととした。

#### 2. その他

- ・平成19年度に「乳がん検診精密検査医療機関」及び「乳がん検診一次検査登録医療機関」の更新を行い、それぞれ16医療機関、20医療機関が登録された。
- ・本委員会で報告している乳がん検診受診状況の総括には、視触診のみの受診者の結果も含まれているが、国においてはマンモグラフィーによる検査を原則としており、国への報告について平成20年度実績から視触診検診のみは計上しない方向にある。よって、「視触診及びマンモグラフィー併用」の者と「マンモグラフィーのみ受診」の者を実績として集計することとし、視触診のみの者は参考資料とすることとした。
- ・検診機関別結果において、医師雇上と中国労働衛生協会は数が少ないので、「その他」として一括に集計してはどうかとの意見があった。



## 乳がん検診従事者講習会・第16回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

日時 平成20年8月23日（土）  
午後4時～午後5時50分  
場所 鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町  
出席者 67名  
(医師：65名、看護師・保健師：2名)

吉中正人先生の司会により進行

### 講演

鳥取県健康対策協議会乳がん対策専門委員会委員長 工藤浩史先生の座長により、島根大学医学部附属病院乳腺内分泌外科科長 板倉正幸先生による「当院における乳癌診療の現況」の講演があ

った。

### 第16回鳥取県検診発見乳がん症例検討会

林 英一先生の司会により3症例を報告して頂き、検討を行った。

- (1) 鳥取県立中央病院（1例）：西村謙吾先生
- (2) 野島病院（1例）：宇奈手一司先生
- (3) 米子医療センター（1例）：鈴木喜雅先生

### 乳がん検診一次検診登録講習

鳥取県立厚生病院外科医長 林 英一先生を講師として、乳がん検診一次検診登録講習を行った。16名の参加があった。

## インターフェロン医療費助成事業始まる

鳥取県肝臓がん抑制対策評価委員会  
鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日時 平成20年8月28日（木） 午後4時～午後5時30分
- 場所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 22人  
岡本健対協会長、村協評価委員長、川崎対策委員長  
秋藤・石飛・岸・岸本・永見・野坂・藤井・前田・松木・  
松田哲・松田裕・満田・宮崎・吉中各委員  
県健康政策課：下田副主幹、澤田副主幹  
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

### 挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

この委員会は川崎寛中先生が委員長に平成7年度から始まり、全国に先駆け肝臓がん検診事業を行ってきました。年々と受診率も向上しており、

平成7年度から平成19年度にかけて、一度肝炎ウイルス検査を受診した人は大変多くなっております。また、松田裕之委員を中心にフォローアップ事業もきちんと行われており、鳥取県の肝臓がん検診事業はかなり評価されているところであります。